資料　１－１

富山地方鉄道本線あり方調査業務（案）

1. 目的

沿線４市町それぞれの実情を踏まえ、富山地方鉄道本線のあり方（運行方策、並行区間の存否、端区間の運行の在り方等）について、課題や対応について検討を行うため、調査事業を実施する。

2. 調査項目

（1）運営状況の把握

下記について、鉄道統計年報等既存資料、及び鉄道事業者資料（貸与）に基づき整理

- 利用状況（年間・日平均、券種別、駅乗降者数、駅間）の経年変化（コロナ感染拡大前(2018 年度)～最新）
- 経営状況の整理（同上）
- 施設整備・更新状況の整理（同上）
- 区間別収支及び設備投資状況の検討（最新年のみ）

（2）将来収支見込みの検討

下記について、（１）の検討結果、既往統計データや将来見通し、貸与資料に基づき検討

- 輸送人員・運輸収入見込みの検討（2030 年、2035 年の 2 箇年を対象）

  社人研の推計人口により、沿線のメッシュ年齢構成別推計人口により本線の区間別輸送人員・運輸収入を概略的に推計する。
- 将来運営経費等見込みの検討（同上）

  運営経費は実績額の動向や内閣府の中長期の物価見通しを参考に算定する。施設整備・更新費は鉄道事業者の将来見込み又は実績額の動向に物価見通しを参考に算定する。

  （１ダイヤあたり、１駅（停車発車）あたりの経費等を含む）
- 将来区間別収支の検討

（3）沿線自治体ニーズに応じた将来収支への影響検討

下記について、沿線自治体の地鉄本線に対する運行サービス等に関するニーズに応じた運行形態に基づき検討

- 運行形態概要の整理
- 運行形態別の区間収支の予測

  運行サービスの低下（減便）や部分廃止に伴う利用者の逸走は見込まないものとし、課題にて整理する。
- 運行形態別のメリット・デメリット及び課題整理

（4）その他

先進地視察等

（将来の運行形態パターンの参考例）

区間 パターン	上市―滑川	滑川―新魚津	新魚津― 宇奈月温泉
１現行維持	維持	維持	維持
２並行区間廃止	維持	廃止（車両移動のみ）	維持
３並行区間廃止撤去	維持	撤去	維持
４滑川止まり	維持	廃止	廃止
５新魚津 ―宇奈月温泉のみ	廃止（車両移動のみ）	廃止（車両移動のみ）	維持

3. 調査業務期間

令和７年７月～令和８年２月　　　※ただし、秋頃に中間取りまとめを行う。

4. 予算概要

本調査については、関係団体（北陸信越運輸局、県、滑川市、魚津市、上市町、富山地方鉄道㈱）と連携を図りながら、黒部市が主体となって実施する。財源は、国の「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」を活用しながら、沿線４市町で負担する。

（歳入）

	金　額	備　考
国庫補助金	6,000	地域公共交通確保維持改善事業費補助金（1/2）
各市町負担金	6,000	@1,500 千円×４市町（魚津市・滑川市・上市町・黒部市）
計	12,000	

（歳出）

	金　額	備　考
視察旅費	500	@50,000 円×10 名（上毛電気鉄道、上信鉄道視察）
講師報償費	300	@150,000 円×２回（交通費含む）
事務用消耗品	100	コピー用紙等
会議室使用料	100	@10,000 円×10 回
調査委託費	11,000	基礎調査、運行形態案検討支援
計	12,000	

※黒部市が取りまとめて一般会計から支出

（国庫補助金及び２市１町の負担金については、黒部市の歳入として取扱う）